

平成 29 年度事業計画

(1) 糖尿病の予防及び治療に関する正しい知識の普及啓発事業

【市民、患者向け】

- 1-1 「糖尿病ライフさかえ」の発行
月刊の協会誌として、患者、家族、糖尿病予備群に対する糖尿病の正しい知識の情報提供と啓発を行う。12冊／年発行する。
- 1-2 糖尿病関連書籍の発行
「糖尿病食事療法のための食品交換表」、「糖尿病食事療法のための食品交換表活用編」、「糖尿病性腎症の食品交換表」、「糖尿病治療の手びき」を発行する。
- 1-3 全国糖尿病週間の実施
11月13日から19日の一週間を全国糖尿病週間とし、日本糖尿病学会との共催で、各都道府県糖尿病協会と連携して糖尿病に関する講演会、血糖測定、医療相談、栄養相談の事業を実施する。糖尿病週間の標語も公募する。
- 1-4 啓発イベントの実施
 - ・「糖尿病啓発フェスタ」（青森）11月26日
 - ・「糖尿病予防キャンペーン」日本糖尿病財団との共催（滋賀）
 - ・「HbA1c 認知向上運動」（埼玉） サノフィ株式会社との共催
 - ・「チャレンジ！糖尿病いきいきレシピコンテスト」（東京～全国）
 - ・「糖尿病とおいしく生きようプロジェクト～いきいきライフクッキング」（全国）
- 1-5 世界糖尿病デー関連のイベントの実施
日本糖尿病学会・本協会と連携して構成する世界糖尿病デー実行委員会に協力し、世界糖尿病デーの認知向上と糖尿病知識の普及啓発活動を推進する。
- 1-6 Team Diabetes Japan
国内外のマラソン大会等への参加を通じて、糖尿病予防や治療についての知識啓発を行う。
- 1-7 ウォークラリーの実施
運動の重要性を周知する目的で、全国でウォークラリーイベントをノボ ノルディスク ファーマ株式会社と共催する。平成29年はウォークラリー25周年となることから、スロージョギングの導入や協賛企業による展示、地方自治体との連携など、新たな企画を実施する。
- 1-8 新しい糖尿病運動療法ブルーエクササイズの普及
ブルーサークルを用いた新しい糖尿病運動療法ブルーエクササイズの普及を図る。
- 1-9 就労と治療の両立支援
糖尿病患者の就労と治療の両立を支援する目的で、企業・患者・医療者それぞれに働きかける事業を実施する。産業保健スタッフの糖尿病知識向上に向けたeラーニングの導入や、中小企業経営者を対象とする糖尿病講習会の実施、治療と就労の両立に向けた手引書の作成を行う。
- 1-10 介護支援者向け
要介護の糖尿病患者を支援する目的で、介護スタッフ向けの糖尿病勉強会や研修テキストを制作する。
- 1-11 啓発資材の作成
糖尿病教室などで使用することができる糖尿病療養の啓発DVDを作成する。

【医療者向け】

1-12 「DM Ensemble」の発行

医療者を対象とする「糖尿病療養指導のための DM Ensemble」を4冊／年発行する。糖尿病療養指導において核となるメディカルスタッフやかかりつけ医育成に役立つ雑誌を目指す。また、第5回日本糖尿病療養指導学会の抄録集は、「DM Ensemble」別冊として発行する。

1-13 登録医・療養指導医・歯科医師登録医制度の展開

日本糖尿病協会登録医・療養指導医制度並びに歯科医師登録医制度を推進し、専門医とかかりつけ医、歯科医師との連携強化を図る。

登録医・療養指導医の学習機会提供のため、eラーニングによる教育システムを開始する。

1-14 日糖協 CDE ネットワークの運営

糖尿病チーム医療を支援するため、地域糖尿病療養指導士（CDEL）養成団体に補助金を支出するほか、認定・更新試験問題の共有を進める。CDEL 認定者の活動機会創出を検討する。

日本糖尿病療養指導学会で CDEL 団体の情報交換・交流の機会を提供する。

1-15 糖尿病カンバセーション・マップ™を活用した療養指導の普及

「糖尿病カンバセーション・マップ™」を使用して療養指導を行うスタッフを育成するためのトレーニングを全国 20 か所程度で実施する。トレーニングを主導するエキスパートトレーナーの要請も目指す。講習会を地域主体で運営可能なシステムの構築を目指す。

1-16 糖尿病療養指導カードシステムを活用した療養指導の普及

療養指導の新しいツールとして開発した療養指導カードの普及に向け、全国 20 か所程度で指導方法を学習する本部主催の講習会を実施するほか、都道府県単位での講習が行える仕組みを構築する。

1-17 日本糖尿病療養指導学会の開催

糖尿病療養指導者の教育と情報交換を行う目的で、日本糖尿病療養指導学会を開催する。（7月 29,30 日：京都）多職種によるディスカッションを通じて相互理解を深め、糖尿病療養指導のコンセンサス確立とチーム医療の発展を目指す。

1-18 地域での医療従事者対象啓発活動の支援

登録医・療養指導医・歯科医師登録医・CDE を対象とした講習会をはじめ、医療従事者を対象とした糖尿病に関する適正医療の普及・啓発に向けた地域での活動を支援する。

1-19 医療者・介護支援者の連携強化

高齢の糖尿病患者の QOL 向上を目指し、糖尿病非専門医とケアマネジャー向けの勉強会の実施、ケアプラン作成に役立つ糖尿病テキストの作成など行う。

1-20 医療者向け資材の作成・普及

糖尿病療養指導に関わる医療スタッフの教育用 DVD を作成し、医療施設や地域糖尿病療養指導士の研修等での活用を促進する。

(2) 糖尿病の予防及び治療に関する調査・研究事業

2-1 調査研究

・経口糖尿病治療薬(インクレチン関連薬を含む)投与に関する実態調査研究
(UNITE Study)

・65歳以上の高齢者2型糖尿病における、シタグリプチンあるいはグリメピリドによる有効性および安全性に関する比較検討試験 (START-J)

- ・インスリン製剤とシタグリプチン併用による有用性の検討 -前向き観察研究- (I-UNITE Study)
- ・トログリフロジンの安全性および有効性の検討-前向き観察研究- (AYUMI)

2-2 若手研究者に対する助成

糖尿病医療に関わる若手を育成することを目的に、糖尿病に関する臨床的・基礎的な研究を行う若手研究者に対し、研究費の助成を行う。

(3) 糖尿病の患者及び家族に対する療養支援事業

3-1 糖尿病友の会の活動支援

全国の糖尿病友の会の活動を活性化するための施策を実施し、会員の療養生活や会員相互の交流を支援する。また、友の会活動を核として地域の糖尿病対策に貢献できる人材育成を目指す。

3-2 糖尿病療養に役立つグッズ、冊子類の発行

糖尿病連携手帳、自己管理ノート、CSII ノート、ID カード、英文カード等の一層の利用拡大を目指す。

3-3 小児 1 型糖尿病対策

・小児糖尿病キャンプの主催

小児 1 型糖尿病患児の医療教育を目的とするキャンプを全国 50 か所程度で主催し、運営を委託する組織に、日本財団の支援を得て補助金を支出する。

・サマーキャンプカンファレンスの開催

小児糖尿病キャンプの標準化とレベルアップを図るため、キャンプ実施責任者の会議を療養指導学術集会時に開催する。

・小児糖尿病キャンプの成果に関する調査

患児・家族を対象とする調査を日本財団の支援を得て実施し、小児糖尿病キャンプがもたらす効果を検証する。

・1 型糖尿病の啓発

社会における 1 型糖尿病の正しい知識の普及を目指し、スポーツ団体などと連携して啓発活動を実施する。

3-4 小児 2 型糖尿病対策

小児糖尿病キャンプをプラットフォームとして活用し、小児 2 型糖尿病患児への支援を実施する。

3-5 インスリンメンター制度

インスリン治療を行う患者にピアサポートを行うインスリンメンターを、小児糖尿病キャンプや友の会などに派遣する。また、1 型糖尿病の啓発に向けて、各地の行事や学校などで講演活動を行う。インスリン治療を行うシニア層を支援できるシニアメンターの派遣活動も強化する。

(4) 糖尿病に関する海外関係団体との連携事業

4-1 IDF、IDF-WPR

12 月に開催される IDF Congress (アラブ首長国連邦 アブダビ) に参加し、IDF 総会や WPR Council Meeting に出席する。各国団体展示コーナーで日本での糖尿病対策と日糖協活動を紹介する。

4-2 AASD

- ・運営助成金を支出するとともに、事務局業務、年次学術集会 (名古屋開催) の支援を行う。
- ・AASD が実施するアジア地域のフットケア・栄養プロジェクトへの協力を行う。

(5) その他本協会の目的を達成するために必要な事業

5-1 会員増強

日本糖尿病協会の会員増強の活動を継続推進する。会員特典の資材を充実させる。

5-2 サポーター制度の周知

小児糖尿病と国際支援事業のサポートを目的とする、個人の賛助会員であるサポーターの増加を目指す。

5-3 他団体との連携

・ CDEJ および地域の CDE 組織

日本糖尿病療養指導士認定機構と糖尿病療養指導学術集会の共催等で連携する。

各地で組織されている「地域糖尿病療養指導士」養成団体と連携し、CDE ネットワークによる地域の CDE の育成協力と活動支援を行う。

・ 日本歯科医師会

歯科医師登録医制度を拡充し、医科歯科連携の促進を目指すため、日本歯科医師会との連携を強化する。

・ 日本糖尿病対策推進会議

日本糖尿病対策推進会議の幹事団体として、推進会議加盟の各団体と連携して糖尿病性腎症重症化予防など、国内の糖尿病対策事業を実施する。

・ ライオンズクラブ

各地のライオンズクラブと連携体制を構築し、会員や市民に向けた糖尿病啓発を実施する。

5-4 災害時危機管理対策

・ 防災意識啓発ミニチラシ配布

平時から災害に備える目的で、インスリンの分散保管を啓発し、災害時の緊急連絡先等を記載したミニチラシの配布を、各都道府県医師会・薬剤師会等の協力を得て実施する。

・ 災害時に連携可能なブロックごとの医療者の人材ネットワーク構築を検討する。

5-5 広報事業

・ 日糖協の認知度を向上させ事業効果を高める目的で、マスメディアに対する広報活動を強化する。プレスリリースの発信やメディアセミナー等を実施する。

・ ホームページ、facebook、メールマガジンでの情報発信

糖尿病の正しい知識の啓発を行うとともに、協会事業、入会の案内等の情報を掲載し、日本糖尿病協会の認知度向上を目指す。

・ 若い世代の糖尿病啓発を目的に、スマートフォンアプリ LINE のスタンプを頒布する。

5-6 糖尿病医薬品・医療機器等適正化

インスリン注入器の仕様共通化および血糖自己測定機器も含めた適切な使用の普及に向けた活動を行う。

その他

その他当協会の目的を果たすために必要な事業を、理事会の承認のもと実施することとする。